

第2回 クルマ・社会・パートナーシップ大賞

ネットヨタ瀬戸内(平松龍一社長、松山市)は、久枝地区まちづくり協議会とともに、定額制送迎サービス「チョイソコひさえた」を運行している。公金投入ゼロで、利用者と地元企業が支え合い、公共

地域ぐるみで支える「チョイソコひさえた」(出発式)

自動車会館 便り

交通の不便な地区での外出機 2万人の約3割が高齢者。地 携することになった。202 会創出に成果を上げている。 区を囲むように鉄道が通り、 1年1月、トヨタ・モビリティ 松山市久枝地区は、住民約 縦断するバス路線はあるもの の、公共交通の 不便なエリアが 多く、買い物や 通院など日頃の 外出が困難とい う声が上がって いた。 地域全体で支 援の在り方を話 し合う中、久枝 地区まちづくり 協議会とネット ヨタ瀬戸内が連 担する。

「チョイソコ」で、複数の利 用者の乗車依頼から最適な乗 り合わせとルート算出。車 両運行は地域のタクシー会社 が担当する。

ネット瀬戸内は、利用者の 予約を受け付け、送迎場所を 確認してタクシーを配車する オペレーション業務を担って いる。「アイシンが開発した 「チョイソコ」で、複数の利 用者の乗車依頼から最適な乗 り合わせとルート算出。車 両運行は地域のタクシー会社 が担当する。

ネットヨタ瀬戸内 公金投入なしで外出機会創出

世の中に広がってほしいグッドパートナーシップ事業―第2回CSGP大賞より ⑤

22年3月、利用者50人に聞き取り調査を行った結果、3割が「外出回数が増えた」と回答した。外出目的は「買い物・通院」のほか、「友人とのカラオケ」「体操教室の参加」など、趣味や娯楽を目的とした利用もあった。また、同乗者同士の交流が生まれ、外出パターンの多様化がみられたことも含め、高齢者の健康増進への効果が確認された。

地域の自治体が移動問題の解決策を支援するケースは多いが、ここでは行政の支援を得ることなく、利用者と地元企業が支え合うことで持続可能な運行を具現化したのが特徴。この運営・移動の仕組みを「久枝モデル」として横展開し、22年5月から松山市小野・久米地区で「チョイソコおのくめ」の有償運行が開始されるなど、他の地域へも広がりをみせている。

(次回は5月19日付、応募受付順に掲載します)